

第12回 法文化学会研究大会 開催案内

ニューズレター第10号ですすでにお知らせいたしましたように、下記の日時・場所において第12回法文化学会研究を開催いたします。お誘いあわせの上、奮ってご参加ください。

日程： 11月7日（土） 午前 9:00より（受付：午前 8:30より）

11月8日（日） 午前 9:30より

会場： 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー

セッション： 7階 多目的ホール

自由報告： 1階 3101教室

理事会： 1階 3105教室

懇親会： 7階 マーキュリーホール

テーマ： 東アジアにおける市民の刑事司法参加

（一橋大学大学院法学研究科・中国人民大学法学院・釜山大学校法科大学によるアジア研究教育拠点事業「東アジアにおける法の継受と創造」との共催）

大会参加費： 無料（懇親会にご参加の方につきましては別途5000円（予定）を大会当日受付にて徴収させていただきます）

（なお学会費に未納のある方は、受付の際にあわせてお支払いいただきますよう、ご協力の程お願い申し上げます。）

別紙の大会プログラム・報告要旨をご参照のうえ参加ご希望の方は、**10月30日（金）**までに、お名前、ご所属、懇親会参加の有無をお書き添えのうえ、電子メールにて法文化学会事務局 admin@legalculture.org 宛にお申し込み下さい。

問い合わせ先： 法文化学会事務局

・郵便：〒186-8601

東京都国立市中2-1 一橋大学大学院法学研究科内 法文化学会事務局

・FAX：042-580-8280

・E-mail： admin@legalculture.org

第12回研究大会 プログラム

第一日：2007年11月7日(土)

8:30 受付

9:00 開催挨拶

9:00～12:30 第1セッション「刑事司法参加制度の生成—法継受の側面と創造の側面」
村岡啓一（一橋大学）「裁判員制度とその誕生—法の継受と創造の観点から」
関永盛（釜山大学）「国民参与裁判制度の概要と成立の経過」
陳衛東（中国人民大学）「中国における陪審制の歴史的歩み」
出口雄一（桐蔭横浜大学）「日本近現代史における市民の刑事司法参加」

＜法文化学会独自プログラム＞

14:00～14:30 理事会

14:30～15:00 総会

15:00～16:00 自由報告1

内藤淳（一橋大学）「ヨーロッパ自然法論の伝統と現代進化倫理学」

16:00～17:00 自由報告2

大中真（桜美林大学）「『英国学派(The English School)』における法制史の視座」

（法文化学会の独自プログラムは、第2セッション「刑事司法参加の機能—市民参加が刑事司法にもたらすもの」と並行して開催されます。）

17:30～ 懇親会

（マーキュリータワー内マーキュリーホール）

第二日：2007年11月8日(日)

9:30～12:30 第3セッション「刑事司法参加の政治哲学—市民参加の思想と憲法的位置」
宍戸常寿（一橋大学）「国民の司法参加の理念と裁判員制度—憲法学の観点」
呉妊真（釜山大学）「国民参与裁判制度の政治哲学」
韓大元（中国人民大学）「中国陪審制の憲法的基礎」

14:00～17:00 第4セッション「法文化としての刑事司法参加—市民の意識と法律家の意識」
青木人志（一橋大学）「法文化としての刑事司法参加」
韓寅燮（ソウル大学）「法文化の中の国民参与裁判制度」
朱景文（中国人民大学）「中国陪審制の民衆的基礎」

以上。

自由報告1：ヨーロッパ自然法論の伝統と現代進化倫理学

内藤淳(一橋大学)

キリスト教と進化論は、一般に、相いれない「天敵」とみなされがちだが、近年の進化倫理学では、キリスト教倫理と進化倫理を比較し、両者の溝を埋めようとする研究が出てきている。中でも、政治哲学、biopolitical theory の研究者であるラリー・アーンハートは、ヨーロッパの自然法論におけるキリスト教の影響に焦点を当てながら、それと進化倫理学とが調和的・補完的關係にあることを主張する。アーンハートによると、メタ倫理的な観点で見たとき、ヨーロッパの自然法論は、アリストテレス、トマス・アクィナス以来の自然主義的な「伝統的」立場と、ホブズに端を発する超越主義的（反自然主義的）な「後発的」立場とに大別され、そのうち前者と進化倫理学は考え方を同じくするという。しかし、報告者の考えでは、これは進化倫理学の議論を限定しすぎた理解であり、近年の進化倫理学説には後者につながる主張もある。現代の進化倫理学は、従来の自然法論での「伝統的」「後発的」それぞれの考え方に相当する視点を有しており、「現代型自然法論」として今後、研究の発展が期待できる。

自由報告2：「英国学派(The English School)」における法制史の視座

大中真(桜美林大学)

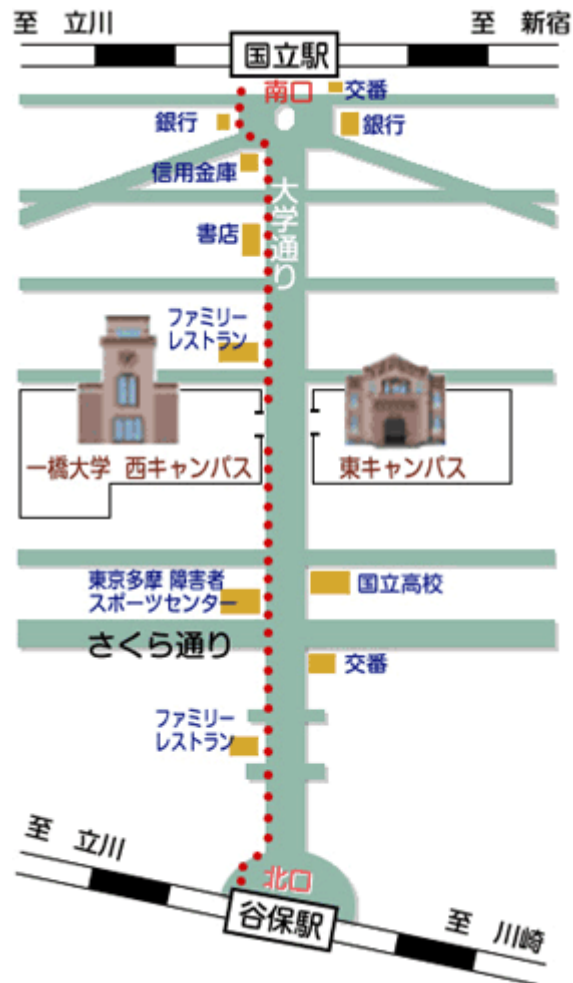
日本ではあまり知られていないが、国際関係論の理論の中に、「英国学派」と呼ばれる一派がある。本報告では、そもそも「英国学派」とは何かを概観した上で、特に報告者が関心を抱いている側面、同学派の中における法制史（国際法史と呼ぶ方が適切かもしれない）の要素を考察したいと考える。先行研究が非常に少ない分野でもあり、今回の報告も試論の域を出ないが、出席者の皆様のご意見・ご指摘を賜れば幸いである。

会場へのご案内

国立市中2-1 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー

交通機関：JR中央線国立駅から徒歩7分、JR南武線谷保駅から徒歩12分

(<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/kunitachi.html>)



会場は下記案内図33番の建物

